

清らかな源流の里
県南農林だより
第17・18合併号



農林業関係の動き

■第44回一般社団法人福島県国際農友会白河支部通常総会が開催

4月10日(月)、JA夢みなみセシモニープラザにおいて、一般社団法人福島県国際農友会白河支部の通常総会が開催されました。

本会は、国、県が行う農業者海外派遣研修事業の修了者を中心に構成され、国際競争力を備える農業経営の確立、地域農業経営者の指導的役割を担う人材の育成及び地域農業振興の緒施策への積極的な協力等、海外研修で得た幅広い知見を活かして地域農業をけん引する大きな役割を果たしています。

総会では、平成28年度に実施した海外派遣研修事業の壮行会、県農業短期大学校学生とのそば打ち体験と意見交換会等の各種事業報告と、29年度計画についても積極的に事業展開を行うことを確認して議事は満場一致で承認されました。

総会終了後には、平成28年度海外派遣研修事業に当支部から参加した、堀井氏(矢吹町)と鈴木氏(矢祭町)の帰国報告会が開催されました。米国における野菜、果樹の有機栽培農家や大規模植木農家等での研修報告があり、お二人ともに、今回の貴重な経験を今後の農業経営に十分に活かすとともに、地域農業のリーダーとして活躍して行きたいとの、力強い決意表明がなされました。(農業振興普及部)

目次

農林業関係の動き

- ◇ 県国際農友会白河支部通常総会
- ◇ 矢祭山みどりの少年団結団式
- ◇ 農道「中石井地区」の完了
- ◇ 県南地方林業協会総会
- ◇ 新嘗祭御田植え
- ◇ 地方植樹祭
- ◇ 親子で実施する農作業体験
- ◇ 「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン
- ◇ 県南地方GAP研修会

コラム

- ◇ 全国植樹祭について
- ◇ 田んぼの学校

お知らせ

- ◇ 熱中症の予防

■「矢祭山みどりの少年団」結団式が行われました！

4月27日(木)、矢祭町立矢祭小学校の児童3～6年生で構成される「矢祭山みどりの少年団結団式」が行われました。

この少年団は、昭和49年に結成された歴史のある少年団です。今年度は新たに39名の3年生を迎え、団員総数170名での結団式となりました。

式には、少年団の育成会長を務める古張矢祭町長をはじめ、活動を見守り支える多くの方が出席し、はやと 県南農林事務所の近藤森林林業部長の祝辞の後、団長の本田颯翔くんが元よく結団宣言をしました。

結団式終了後には、今年度の最初の活動として、3年生による稚鮎の放流が久慈川の矢祭橋付近で行われました。今後も、自然散策や清掃・美化活動など様々な活動を計画していて、少年団の活躍が期待されます。(森林林業部)



本田颯翔団長による決断宣言

■農業農村整備事業(農道 中石井地区)の完了



完成した農道中石井2期地区

矢祭町中石井～下石井地域における国道118号線の東側は、山間に農地が点在しており、これらの農地間を移動するには交通量の多い国道118号線を利用しなければならず、国道上で一般車両と速度の遅い農耕車両が混在して農耕車にとって危険である他、一般車両にも走行上の支障が生じていました。

これらの改善と農作業の効率化のため、農村整備部では農道整備事業・中石井地区として国道の東側に農道を新設(一部は現道改良)する事業を進め、平成28年度には2期地区720mの工事が完了し、完了済の1期地区と合わせて約1.7kmの農道が利用可能になりました。

この他、平成28年度に管内7地区で水利施設や農道の工事を行いました。事業実施の効果を速やかに生み出せるよう、本年度は10地区で工事を実施し、内2地区の事業完了を目指しています。(農村整備部)

■県南地方林業協会総会が開催



総会の様子

5月1日(月)、福島県棚倉合同庁舎において、県南地方林業協会の平成29年度通常総会が開催されました。

この協会は、管内の市町村や森林組合、建設会社32団体で構成され、県南地方の林業振興について協議し、郷土の保全と山村経済の振興に努めることを目的として設立されたもので、今年度は会員等27名が出席しました。

総会では、会長である大楽鮫川村長の挨拶の後、平成28年度治山施設事業(団体営)本坂地区が優良森林土木工事として表彰されました。また、昨年度行われた夏休み森林教室や会員の技術力向上を目的とした研修会の開催等の事業報告と、今年度の事業計画として森林土木技術の向上、林業経営の改善等を図るための講習会・研修会の開催等が審議され、全会一致で可決されました。(森林林業部)

■新嘗祭御田植え



地元高校生扮する「早乙女」

5月21日(日)、鮫川村の農家、鈴木寛重さん方で献穀の御田植式が行われました。

献穀とは、宮中で行われる「新嘗祭」に供するため、新穀を献納するもので、明治25年から続いている伝統的な行事です。今回の御田植では県の新しいオリジナル品種「里山のつぶ」を植えました。

御田植式では、鈴木さん家族と大楽鮫川村長、松房県南農林事務所長らが田植の儀を行った後、姉様かぶりにかすりの着物姿の「早乙女」に扮した村内の女子高生等が田植えを行い、神事に花を添えました。今後は、9月の収穫時に合わせて抜穂式を行い、10月下旬に鈴木さんから「里山のつぶ」の新米が皇居で献納されます。(農業振興普及部)

■第67回地方植樹祭が開催



記念植樹

5月25日(木)、矢祭町金沢地域内の来る里くるりのもりの杜で「第67回地方植樹祭」が開催され、町内外より108名が参加しました。

式典では、開催地の古張矢祭町長より開催の挨拶があり、矢祭山緑の少年団団長の本田はやと颯翔かいらさんと齋藤海璃さんが元気よく緑の誓いを宣誓しました。

また、平成30年開催の第69回全国植樹祭に向けた取組の一つである「森林とのきずなづくり植樹リレー」が行われ、森林林業緑化協会三浦事務局長から、古張矢祭町長へバトンとプレートが引き継がれました。

当日は、雨が降り続くあいにくの天気とはなりましたが、来る里の杜が、色とりどりの花々が咲き誇る緑豊かな森になる

ことを願って、参加者全員が植樹活動に取り組みました。(森林林業部)

■親子で実施する農作業体験



レタスの収穫方法の説明を聞く参加者

6月18日(日)、白河市表郷の株式会社吉野家ファーム福島体験ほ場で、しらかわ広域連携グリーン・ツーリズム推進協議会主催による農産物収穫体験が開催され、東京都三鷹市の親子約100名がレタス、ハツカダイコン、スティックセニョールの収穫体験を楽しみました。

ハツカダイコンの成長が遅れて小さな物しか獲れないハプニングもありましたが、大きな物を探し出す「宝探し」とするなど、皆が楽しんで体験できました。参加者からは「なかなか経験できないからとても新鮮だ。」「たくさん収穫したから親戚や近所にもお裾分けしたい。」などの感想が寄せられました。

農産物の収穫体験が、県南地方の農業や食に理解促進につながるとともに、都市と農村の交流活性化につながることを期待されます。(企画部)

■「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン



景品を選ぶお客様

6月25日(日)、白河市の農産物直売所り菜あんににおいて、「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました。

本キャンペーンは、地元産の農林水産物の美味しさや安全性を消費者の皆様にも再確認していただき、消費拡大を図ることを目的に開催しています。

今回は、ブロッコリー等の春野菜や6次化商品のPRを行いました。り菜あんの野菜ソムリエさんご自慢の「ブロッコリーのしそ天ぷら」や「ズッキーニのピカタ」を試食していただくとともに、アンケートに協力していただいたお客様に春野菜などを配布しました。

お客様からは、「ブロッコリーの天ぷらがこんなにおいしいとは思わなかった。」「ズッキーニの食べ方がわかって良かった」等の感想をいただきました。

これからは夏野菜の本番を迎えます。是非、県南地方のおいしい野菜を食べてください。(企画部)

■県南地方GAP研修会の開催



澤井先生による現地研修

7月6日(木)7日(金)、JA夢みなみ、JA東西しらかわとの共催による平成29年度県南地方GAP研修会を開催し、生産者、市町村、県関係者等約200名がGAPについて学びました。

6日は、白河市表郷のホテル&コテージ「関の里」で、北海道有機認証センター・北海道GAPセンターのJGAP上級審査員である澤井潤子氏の講演「GAPの役割と第三者認証取得について」を拝聴し、GAPに取り組む意義と押さえるべき3つのステージ(前提条件、生産工程管理、商品管理)について学びました。

続いて、県環境保全農業課の瀧田主査から、県のGAP推進方針と第三者認証GAP取得促進事業の概要について説明があり、その後個別相談会を行いました。

翌7日は、白河市表郷と泉崎村のトマト農家において現地研修会を行い、澤井先生から出荷調整作業場、農薬保管庫、倉庫及びほ場で具体的なリスクと改善点について、詳しく学びました。

県では、本年5月に内堀知事がJA福島中央会の大橋会長と「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」をし、「GAPの第三者認証取得日本一」を目指すことといたしました。県南農林事務所としましても、農家の皆様が率先してGAPに取り組めるよう関係団体と連携を密にし取り組んでまいります。(農業振興普及部)

コラム

■全国植樹祭について

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、昭和25年から開催されている国土緑化運動の中心的行事です。天皇皇后両陛下のご臨席を賜るとともに、県内外から多くの参加者が集まり、式典や記念植樹が行われます。

第69回大会は平成30年春季に南相馬市原町区^{しどけ} 雫 地内で行われます。また、本大会の他に県内各地にサテライト会場やPR会場が設置されます。

PR会場の一つは白河市に設置され、JR白河駅前イベント広場において、式典中継や苗木のプレゼントの他、県南地方の特産品の販売や木工クラフト等の体験コーナーが設けられる予定になっています。

PR会場の開催の機運を高めるために、6月11日に霊山こどもの村で行われた大会1年前記念イベントにおいて、県南地方の魅力発信コーナーを設け、管内全9市町村の協力のもと、各市町村の特産品の販売やイメージキャラクターのグッズの無料配布等を行いました。

また、全国植樹祭で植栽する苗木を小学校、家庭及び企業等で育成する苗木のスクールステイ、ホームステイを実施しており、苗木を十分に成長させるために育成環境の改善指導とともに全国植樹祭のPRを行っています。

PR会場の開催に向けた準備は緒についたばかりですが、県南地方の農林業の取組をアピールする絶好の機会にしたいと思えます。(森林林業部)



大会1年前イベントでの
県南地方魅力発信コーナー



スクールステイ中の苗木

■田んぼの学校の取組み

田んぼの学校とは、日本の食と農の基礎である「田んぼ」と田んぼに付随する水路やため池、里山など周辺の環境を遊びと学びの場として活用する環境教育の総称です。平成10年度に、国土庁（現国土交通省）、文部省（現文部科学省）、農林水産省合同で設置された研究会により提唱されました。

当事務所管内では、平成18～20年度に埴町立埴小学校、平成21～23年度に矢吹町立善郷小学校、平成24～26年度に棚倉町立棚倉小学校がこの田んぼの学校で、農業や食、命の大切さを学んできました。

平成27年度からは再び埴町立埴小学校の5年生が田んぼの学校に取り組んでいます。

具体的な内容を本年度の取組みからご紹介します。

◎第1回活動「田植え」5月10日（水）

開校式を行い、約100㎡の田んぼで田植えを行いました。

児童は、地元農家の方々から苗の植え方を教わった後、歓声を上げながら裸足で田んぼに入り、泥んこになりながらも丁寧に苗を植えました。また、隣の大きな田んぼでは、農家の方が機械を使ってコガネモチ（もち米）の苗を植える様子を、目を輝かせながら見学しました。

「昔の人は大変な思いをして田植えを行っていたことがわかった。」
「お米の大切さがわかり、ごはんを残さずに食べたいと思う。」との感想が聞かれました。



素足で田植に挑む

◎第2回目活動「生きもの調査」7月11日（月）

田んぼやその周辺にはどんな生きものがいるのか調査しました。

児童は、アクアマリンふくしまの講師の方から生きものの捕まえ方の説明を受け、自分たちの手で玉網を使って様々な生きものを捕獲しました。

カエルや数種類のドジョウ、タニシ、タモロコなど、たくさんの生きものを捕獲し、講師からの種類や生態などの解説に真剣な様子で聞き入っていました。

児童は、「身近な生きものについてこれからも勉強したい。」と感想を述べていました。

今後は、手狩りでの稲刈りとはさがけでの乾燥、干把扱きでの脱穀など昔ながらの方法で収穫作業を行い、収穫祭で自ら育てたお米を味わうこととしています。（農村整備部）



アクアマリンふくしまの講師の話聞く

お知らせ

■農作業時の熱中症に注意しましょう！



○一日の中で急に暑くなる日は要注意です。

○体調不良時は無理をしないようにしましょう。



○喉が渇く前に水分を摂りましょう。

○涼しい場所でこまめに休憩しましょう。（農業振興普及部）



農林業に関する相談などお気軽にご連絡ください！

福島県県南農林事務所 企画部

〒 961-0971

住所 福島県白河市昭和町269[白河合同庁舎]

電話 0248-23-1577

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36230a/>

平成29年7月20日発行

